

令和7年度 学びの充実あと押し事業
子どもたちはどう学ぶのか

実践内容

愛知県緒川小学校の視察から得たこと

「子どもが自ら自己調整しながら進める学びは、学ぶ環境を整えることに支えられている」

伊那中学校での実践



【生徒の選択を支える環境】

伊那中学校の探究的な教科の学びは「生徒が選択する」ことを大切にしている。生徒の選択を支える環境づくりを行った。

美術：造形実験のための様々な材料

理科：実験方法を考える様々な器具

【見通しをもって授業に臨む】

単元全体の見通しをもち、やるべきことが生徒がわかるよう単元展開と現在の位置がいつでもわかるようにした。

国語：単元展開と学習課題を毎回提示

単元を通した課題

筆者に向けて、自分の意見を述べよう。

単元の流れ

- 1 本文を読む・最初の印象を書く。
- 2 本論を3つに分ける・語句を調べる。
- 3 問いと答え・主張と根拠を捉える。
- 4 筆者の論理の展開を吟味する。
- 5 観点を決めて自分の意見を整理する。
- 6 自分の意見・主張を筆者に向けた手紙としてまとめる。

行った内容にチェックを入れ
本時の内容を共有する



【学び直し、再確認ができる環境】

生徒が自ら学びを自分のペースで自己調整できるための環境づくりを行った。

技術：二次元コードからいつでも見られる学び直しや再確認ができる動画

成果と課題

環境づくりを進めることで、生徒が自分の「やってみたい」に挑戦する多様な学びの姿が見られた。一方で、環境づくりにかかる労力が増えるなどの課題が見られた。

教師がすべて整えるのではなく、生徒が学び方を選び、調整できるように、日々の授業の中で学び方を獲得できるようにしていきたい。